

調査依頼書(CentreCOM FS702FCR/FTR)

年 月 日

一般事項	
1. 御社名:	
部署名:	ご担当者:
ご連絡先住所: 〒	
TEL: ()	FAX: ()
2. 購入先:	購入年月日:
購入先担当者:	連絡先(TEL): ()

ハードウェアとネットワーク構成

1. ご使用のハードウェア機種（製品名）、シリアル番号、リビジョン

製品名: CentreCOM FS702FCR・FS702FTR（どちらかを で囲んでください。）



2. お問い合わせ内容

別紙あり 別紙なし
設置中に起こっている障害 設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図

別紙あり 別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

ファーストイーサネット・スイッチ CentreCOM® FS702FCR/FTR ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM FS702FCR/FTR（以下FS702と略記します）をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。このユーザーマニュアルをお読みになり、正しい設置を行ってください。また、お読みになった後も、大切に保管してください。

● 製品概要

FS702は、2つのポートを持つFast Ethernet (100Mbps)スイッチです。2つのポートしか持たないという点でブリッジと非常に似ており、基本的な使い方もブリッジと変わりませんが（ネットワークポロジの適切な個所に導入するだけで複雑な設定は不要です）。しかしながら、本製品は100BASE-TX、100BASE-FXのサポートや、高性能なスイッチング技術の搭載によって、ネットワークのあらゆる個所で高いパフォーマンスを発揮します。また、100BASE-TXのポートは10BASE-Tもサポートしており、100Mbps・10Mbpsの通信速度の変換も可能です。さらに10BASE2 (BNC)、10BASE5(AUI)もサポートしており、幅広い用途に使用できます。以下に、本製品の基本的な働きや特長について説明します。

- ・光ファイバーのネットワーク構築に最適
- ・電源内蔵型
- ・Full Duplex/Half Duplex切り換え機能
- ・100BASE-TX/10BASE-T切り換え機能
- ・10BASE-2(BNC)、10BASE5(AUI)ポートを装備
- ・ストア&フォワード・スイッチング方式
- ・ネットワークや機器の状況が一目でわかるLED表示機能付き

● 同梱品一覧

最初にFS702の梱包箱の中身を確認して、以下のものが入っているかを確認してください。

- ・ FS702本体
- ・ 電源ケーブル (AC100V用)
- ・ 保証書
- ・ お客様インフォメーション登録カード
- ・ ユーザーマニュアル
- ・ シリアル番号シール
- ・ 製品仕様書 (英文)

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項は必ず守ってください。守られていない場合、感電や怪我、火災、故障の原因となります。



ケースを外さないでください。
本装置の内部には高電圧の箇所が存在します。感電の恐れがありますので、絶対にケースを外さないでください。ユーザーに必要な部品は内包されています。



稲妻危険
稲妻が発生しているとき、ケーブルの配線などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



光ファイバーケーブル・コネクタを直視しない
光ファイバーケーブルの端面や機器側のコネクタなどを目で直視しないでください。強い光を通している場合、目に障害が発生する恐れがあります。



正しい電源を使ってください。
本装置は、AC100-240Vで動作します。ご使用前に必ずご確認ください。なお、本装置に付属の電源ケーブルは100V用ですので、ご注意ください。



正しい電源ケーブルおよびコンセントを使用してください。
本装置に電源を供給する場合には、必ず電源電圧に適合した電源ケーブルをご使用ください。日本国内などで100Vでご使用になる場合は、本装置に付属の電源ケーブルをご使用ください。電源ケーブルのプラグは、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントをご使用になった場合にお客様が被った損害についてはいかなる責任も負いかねます。

電源ケーブルは無理に折り曲げたり、引っ張ったり、なじったりしないでください。また、圧力がかかりコードがつかれてしまうような箇所に電源ケーブルを敷設しないでください。



たご足配線をしないでください。
テーブルトップをご使用になる場合、たご足配線をしないでください。たご足配線は、火災の原因になります。



通気口をふさがないでください。
本装置の通気口をふさがないでください。通気口をふさいだ状態で本装置を使用すると、加熱などにより故障、火災の恐れがあります。



取り扱いには丁寧に
落としたり、ぶつけたたり、強いショックを与えないでください。



動作温度
本装置は、周囲温度 0 ~ 40 の範囲でご使用下さい。特に、本装置をラックなどに組み込んでご使用になる場合、換気には十分ご注意ください。



異物を入れないでください。
通気口から金属や液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。



設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて
本装置の設置や移動、ケーブル配線などを行う場合は、必ず電源ケーブルを抜いた状態で行ってください。



次のような場所での使用や保管はしないでください。
・ 直射日光の当たる場所
・ 暖房器具の近くなどの高温になる場所
・ 急激な温度変化のある場所 (結露するような場所)
・ 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所 (湿度80%以下の範囲でご使用ください)
・ 振動の激しい場所
・ ほこりの多い場所や、ジュースをぬいた場所 (静電気障害の原因になります)
・ 腐食性ガスの発生する場所



日常のお手入れ
本装置の汚れは、乾いたやわらかい布でふきとってください。ペンジン、シンナーなどは使用しないでください。変形や変色の原因になります。

PORT1

接続するメディアに合わせてコネクタを選択します。(PORT1は100BASE-TX/10BASE-T/2/5の共用ポートとなっています。3つのコネクタを同時に使用することはできません。)

(1) BNC (10BASE2) ポート
10BASE2のシノワイヤークーブル (細径同軸ケーブル) を接続するためのコネクタです。使用方法については、後述の「 設置、接続のしかた 」をご参照ください。

(2) TERMINATORスイッチ
BNCポートに内蔵された50 のターミネータ (終端器) のON/OFFが設定できます。

ON (右)
FS702をシノワイヤークーブルの端に設置する場合は、「ON」に設定し、シノワイヤークーブルのBNCコネクタ (オス) を直接接続します。

OFF (左)
FS702をシノワイヤークーブルの途中に設置する場合は、「OFF」に設定し、T型バルブを用いて2本のシノワイヤークーブルを接続します。このとき、2本のシノワイヤークーブルの両端はそれぞれ50 のBNC用ターミネータで終端させ、T型/ループに接続してください。

(3) AUI (10BASE5) ポート
トランシーバークーブル (AUIケーブル) を接続するためのコネクタです。使用方法については、後述の「 設置、接続のしかた 」をご参照ください。

(4) 10/100BASE-TXポート
RJ-45コネクタを持った10Mbps/100MbpsのUTPケーブル用ポートです。
10/100BASE-TXポートを使用する場合は、フロントパネルのMEDIAセレクトスイッチの左側を「10/100TX」に設定します。(右側は無効になります。)
SPEED切り換えスイッチによって10BASE-Tまたは100BASE-TXとして使用できます。
また、DUPLEX切り換えスイッチによってFull DuplexまたはHalf Duplexで使用できます。

(5) CASCADEスイッチ
10/100BASE-TXポートをカスケード接続用ポートとして使用するが、通常のポートとして使用するかを選択します。

To HUB (MDI)
カスケード接続をするときのカスケードポート (MDI) として使用します。

To PC (MDI-X)
通常のポート (MDI-X) として使用します。

PORT2

(6) 100BASE-FXポート
SCまたはSTコネクタを持った100Mbpsの光ファイバーポートです。DUPLEX切り換えスイッチによってFull DuplexまたはHalf Duplexで使用できます。

(7) 電源コネクタ
電源ケーブルを接続するためのコネクタです。電源スイッチはありませんので、電源ケーブルを接続すると、電源がオンになります。

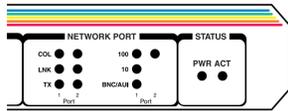
(8) MEDIAセレクトスイッチ
PORT1のメディアに応じたポートを設定する際に使用します。
電源オンの前に切り換えておく必要があります。(電源オン後の切り換えは無効です。)

BNC: 左側を「BNC/AUI」、右側を「BNC」
AUI: 左側を「BNC/AUI」、右側を「AUI」
10/100BASE-TX: 左側を「10/100TX」、右側は無効)

(9) SPEED切り換えスイッチ
PORT1の通信速度を切り換えます。
上側が10BASE-T、下側が100BASE-TXで通信します。
BNCおよびAUIは10Mbpsのみです。
電源オンの前に切り換えておく必要があります。(電源オン後の切り換えは無効です。)

(10) DUPLEX切り換えスイッチ
PORT1-2のDUPLEXモードを切り換えます。
上側がHalf Duplex (半二重)、下側がFull Duplex (全二重) です。
電源オンの前に切り換えておく必要があります。(電源オン後の切り換えは無効です。)

● LED表示



PWR

本体に電源が正常に供給されているとき点灯します。

ACT

本体全体のバケットの送受信が正常に行なわれているときに点滅します。

COL

該当ポートのセグメント上でコリジョンが発生しているときに点滅します。(Half Duplexモード時のみ。)

LNK

該当ポートと接続機器とのリンクが確立し、相互に通信が可能な状態にあるとき点灯します。

TX

該当ポートのバケットの送信が正常に行なわれているときに点滅します。

100

該当ポートが100Mbpsで通信している状態を示します。PORT2は電源オン状態で常に点灯しています。PORT1はSPEED切り換えスイッチが「100」のとき点灯します。

BNC/AUI

PORT1がBNCポートまたはAUIポートに設定されているときに点灯します。

● 設置するまえに

設置場所
FS702を設置する適切な場所を確保してください。以下のような場所への設置は避けてください。

- ・ 直射日光のあたる場所、湿気が多い場所や水のかかる場所
- ・ 温度変化の急激な場所 (暖房機、エアコン、加湿器、冷蔵庫の近くなど)
- ・ ほこりの多い場所
- ・ 強い振動、腐食性ガスの発生する場所

電源

電源電圧に合った適切な電源ケーブルを使用してください。日本国内などで100Vでご使用になる場合は、FS702FCR/FTRに付属のAC電源ケーブル (アース線付き3ピンコネクタ) を使用し、3ピンAC電源コンセントに接続してください。不適切な電源ケーブルやコンセントをご使用になると、アースが取れず、本体の金属部分に触れたとき感電する恐れがありますのでご注意ください。

● 起動と停止

本体背面の電源コネクタに電源ケーブルを接続すると起動し、はずすと停止します。
FS702には**電源スイッチがありません。電源ケーブルを接続した時点で電源がONとなりますのでご注意ください。**また、電源コンセントに電源ケーブルを接続した状態でFS702側の電源ケーブルをはずさないようにしてください。感電事故などを引き起こす可能性があります。

● 設置、接続のしかた

ご希望の場所に設置します。水平な安定した場所で、本装置の両側面にある通気口が異物などによってふさがれないような場所に設置してください。また、本装置は屋外ではご使用できません。

MEDIAセレクトスイッチをPORT1に接続するケーブルに合わせて。

DUPLEX切り換えスイッチを接続する機器と合わせます。
SPEED切り換えスイッチを接続する機器と合わせます。

すべてのケーブルが装置間を接続するのに適切な長さであることを確認します。

	ケーブルの種類	ケーブルの最長距離
10BASE-T	UTPケーブル (カテゴリー3/4/5)	100m
100BASE-TX	UTPケーブル (カテゴリー5)	100m
10BASE2	シノワイヤークーブル (5mm径)	185m
10BASE5 (幹線)	イーローケーブル (12mm径)	500m
10BASE5 (支線)	トランシーバ (AUI) ケーブル	50m

PORT2 (100BASE-FX)

ポートと端末間
イーサネット・スイッチ半二重に接続: 412m
イーサネット・スイッチ全二重に接続: 200m

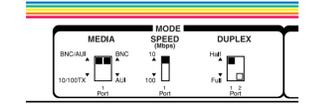
2セグメントの合計長 (ClassIIリビータ1台で接続)
2セグメントとも100BASE-FXの場合: 320m
100BASE-FXと100BASE-TXが混在する場合: 308.8m (100BASE-TXは最長100m/セグメント)

3セグメントの合計長 (ClassIIリビータ2台で接続)
3セグメントとも100BASE-FXの場合: 228m
100BASE-FXと100BASE-TXが混在する場合: 216.2m (100BASE-TXは最長100m/セグメント)

ケーブルはマルチモードタイプの光ファイバーケーブル (MMF) で、コネクタタイプ (SCまたはST) に合ったケーブルを使用してください。

1. PORT1を使用するメディアに合わせて設定します。(PORT1は100BASE-TX/10BASE-T/2/5の共用ポートとなっています。3つのコネクタを同時に使用することはできません。)

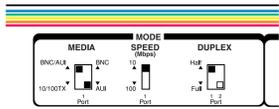
BNC (10BASE2) ポートを使用する場合
フロントパネルのMEDIAセレクトスイッチの左側を「BNC/AUI」にし、右側を「BNC」に設定します。



(この場合、SPEED切り換えスイッチおよびDUPLEX切り換えスイッチは無効となります。)

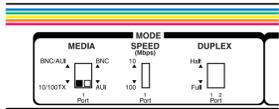
BNCポートにシノワイヤークーブルを接続し、接続形態に合わせてリアパネルのTERMINATORスイッチをONまたはOFFに設定します。

AUI (10BASE5) ポートを使用する場合
フロントパネルのMEDIAセレクトスイッチの左側に「BNC/AUI」にし、右側を「AUI」に設定します。



(この場合、SPEED切り換えスイッチおよびDUPLEX切り換えスイッチは無効となります。)

10/100BASE-TXポートを使用する場合
フロントパネルのMEDIAセレクトスイッチの左側に「10/100TX」に設定します。(右側は無効になります。)



SPEED切り換えスイッチを10 (10BASE-T) または100 (100BASE-TX) に設定します。DUPLEX切り換えスイッチをHalf (半二重) またはFull (全二重) に設定します。

- 各ポートに適切なケーブルを接続します。
- 相手側機器の該当ポートに接続します。
- 電源ケーブルを本体前面の電源コネクタにさし込みます。
- 本体前面のPOWER LEDが点灯することを確認します。各ケーブルの接続が正しく行われていれば、接続したポートのLINK LED が点灯します。

● ネットワーク構成

FS702は光ファイバーの長距離接続性を活かして、同一構内の建物間などのバックボーン接続の際のメディアコンバーターとしての使用に適しています。各メディアをネットワークバックホーンとして接続する場合の構成を図で示します。

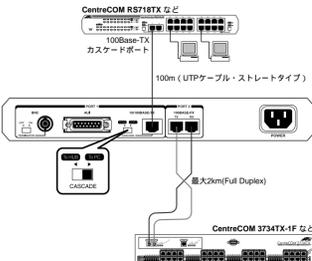


図2 100BASE-TXを接続した例

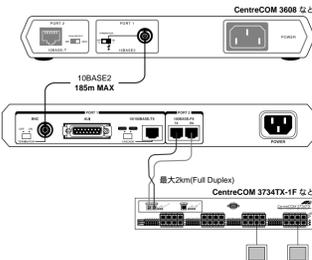


図3 BNC (10BASE2) を接続した例

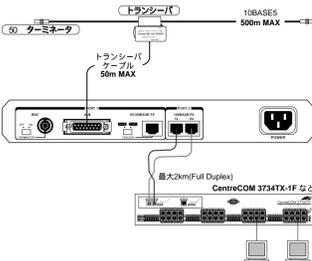


図4 AUI (10BASE5) を接続した例

● カスケード接続 (100BASE-TX/10BASE-T)

CASCADEスイッチを使用すると、ケーブルを変更することなく簡単にカスケード接続することができます。また、リピータやハブとは異なり、スイッチはカスケード接続できる数に理論上の制限がありません。FS702同士も、カスケード用途に合わせ拡張することができます。(実際にはカスケードの段数は、ネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトなどによって制限される場合があります。)

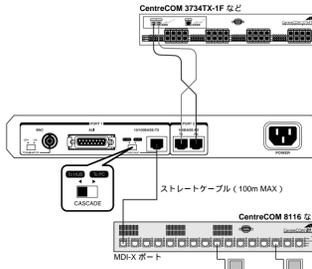


図5 カスケード接続の例

● トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

1 PWR LEDは点灯していますか?

PWR LEDが点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。

2 LNk LEDは点灯していますか?

LNk LEDは接続先の機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

接続先の機器に電源が入っているか確認してください。

また、端末に取り付けられているネットワークインターフェイスカードに障害がないか、ネットワークインターフェイスカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。UTPケーブルは外形上断線しているかわかりにくいので、ケーブルを換えてみるのも一つの方法です。また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。2つのネットワーク機器の直接リンクを形成するUTPケーブルは最大100mと規定されています。

光ファイバーケーブルが正しく接続されているか、正しい光ファイバーケーブルを使用しているか、光ファイバーケーブルが断線していないかなどを確認してください。また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。光ファイバーはFull Duplexの場合2km、Half Duplexの場合412mです。

光ファイバーケーブルはクロス接続 (TX RX、RX TX) となっているか確認してください。

特定のポートが故障している可能性もあります。ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

リピータ (= ハブ) の数が制限を越えていないか確認してください。ファーストイーサネット (100Mbps) の場合、クラスIIのリピータは、1つのコリジョンドメイン内で2台までをカスケード接続することができます。その場合、リピータ間のケーブルの長さは5m以内としてください。クラスIのリピータはカスケード接続することができます。イーサネット (10Mbps) の場合、カスケードできるリピータの台数は、最大4台までとされています。

3 通信モードは正しく設定されていますか?

DUPLEX切り換えスイッチを確認してください。接続相手先と合わせてFull DuplexまたはHalf Duplexにします。

SPEED切り換えスイッチを確認してください。10/100BASE-TXポートを使用している場合には接続相手先に合わせて、10Mbpsまたは100Mbpsに設定します。

MEDIAセレクトスイッチを確認してください。使用しているメディアに合った設定になっているか確認します。

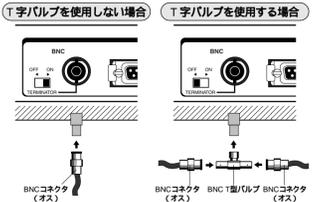
CASCADE切り換えスイッチの設定を確認してください。10/100BASE-TXポートをハブやスイッチに接続する場合は、「To HUB(MDI)」に、トランシーバやワークステーションのネットワークインターフェイスカードに接続する場合は、「To PC(MDI-X)」に設定してください。

4 BNCポートのTERMINATORスイッチはどうか?

シツイヤーケーブルの両端にBNC用ターミネータが正しく接続されているかどうか、また、両端のターミネータ以外に余計なターミネータが接続されていないかどうかを確認してください。

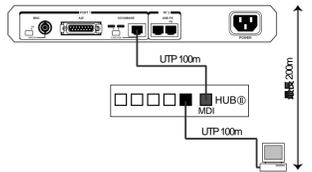
TERMINATORスイッチが「ON」に設定されている場合は、50の内蔵ターミネータがONの状態となりますので、ターミネータを接続する必要はありません。シツイヤーケーブルのBNCコネクタを直接BNCポートへ接続します。BNCポートにT型バルブを用いて、2本のシツイヤーケーブルを接続する場合は、内蔵ターミネータをOFFの状態にする必要があります。その場合は、TERMINATORスイッチ

チを「OFF」に設定し、それぞれ50のターミネータを接続した2本のシツイヤーケーブルをT型バルブに接続してください。

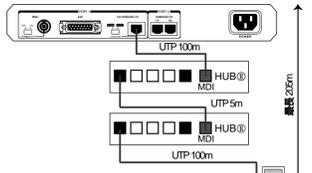


● 100MHUBを接続する際の制限 (下図のMDIはカスケードポートです。)

ClassIIリピーターHUB1台使用時の100BASE-TXの最大経路長の制限
ファーストイーサネットのリピータHUBには、2タイプ (ClassI/ClassII) の定義があります。リピータHUB本体には、ローマ数字の「I」が「II」を円の中央に描いたマークが表記されています。ここでは「端末・ClassIIリピーターHUB」を利用した100BASE-TXでのネットワーク構築方法を説明します。10Mbpsイーサネット同様、リピーターHUBのみによるセグメント接続には最大経路長があります。ClassIIリピーターHUBを、1台のみ使用した100BASE-TXの場合はUTP/STPケーブルを最長の100mまで接続が可能で、最大経路長は200m以内となります。

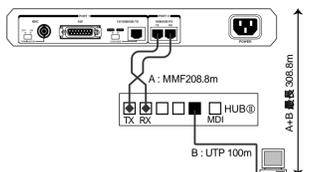


ClassIIリピーターHUB2台使用時の100BASE-TXの最大経路長の制限
ClassIIリピーターHUBは、2台までの多段接続 (カスケード) が可能です。但し、リピーターHUBの内部遅延が影響し、100BASE-TXでの最大経路長は205m以内に制限されています。また、リピーターHUB間の接続は最大5mになります。

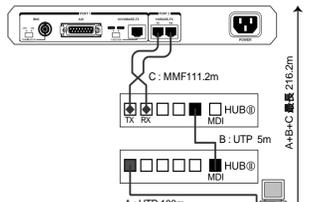


● ClassIIリピーターHUBにより、100BASE-FXと100BASE-TXのセグメントを相互接続した場合の制限

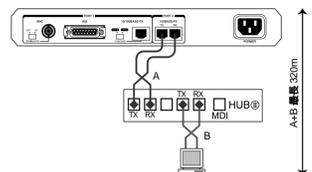
ClassIIリピーターHUB1台使用時の100BASE-FXと100BASE-TXの最大経路長の制限
ClassIIリピーターHUBを1台のみ使用した100BASE-FXと100BASE-TXの場合は最大経路長 (セグメントA+セグメントBの合計) が308.8m以内となります。下図は、100BASE-TXのセグメントBに最大100m利用した場合、308.8m-100m=208.8mが100BASE-FXで利用できる長さの限界となります。



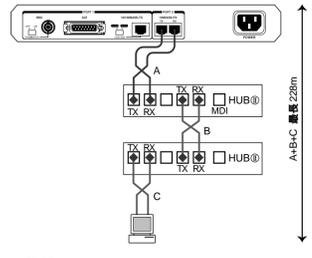
ClassIIリピーターHUB2台使用時の100BASE-FXと100BASE-TXの最大経路長の制限
ClassIIリピーターHUBは、2台までの多段接続 (カスケード) が可能です。但し、リピーターHUBの内部遅延が影響し、100BASE-FXと100BASE-TXでの最大経路長は216.2m以内に制限されます。セグメントA+セグメントB+セグメントCの合計が216.2m以内であること。下図は、100BASE-TXのセグメントAに最大100mとセグメント5mを利用した場合、216.2m-105m=111.2mが100BASE-FXで利用できる長さの限界となります。



ClassIIリピーターHUB1台使用時の100BASE-FXの最大経路長の制限
ここでは「端末・ClassIIリピーターHUB」を利用した100BASE-FXでのネットワーク構築方法を説明します。10Mbpsイーサネット同様、リピーターHUBのみによるセグメント接続には最大経路長があります。ClassIIリピーターHUBを、1台のみ使用した100BASE-FXの場合は最大経路長 (セグメントA+セグメントBの合計) が320m以内となります。



ClassIIリピーターHUB2台使用時の100BASE-FXの最大経路長の制限
ClassIIリピーターHUBは、2台までの多段接続 (カスケード) が可能です。但し、リピーターHUBの内部遅延が影響し、100BASE-FXでの最大経路長は228m以内に制限されます。セグメントA+セグメントB+セグメントCの合計が228m以内であること。



● 推奨ケーブル

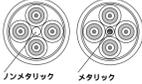
100BASE-TX/10BASE-Tケーブル
以下のような経線 (ストレート) のUTPケーブル (Unshielded Twisted Pair Cable=シールドなしツイストペアケーブル) をご使用ください。100BASE-TXでは、カテゴリ-5のUTPを使用しなければなりません。10BASE-Tでは、カテゴリ-3、4、5のケーブルを使用することができます。

MAU (MDI)	HUB (MDI-X)
TD + 1 -----> 1 RD +	
TD - 2 -----> 2 RD -	
RD + 3 -----> 3 TD +	
未使用 4 4 未使用	
未使用 5 5 未使用	
RD - 6 -----> 6 TD -	
未使用 7 7 未使用	
未使用 8 8 未使用	

100BASE-FXケーブル (光ファイバーケーブル)
マルチモードファイバー-波長1.3μm (1300nm) ...100BASE-FX伝送特性 伝送損失 1.0db/km以下
伝送帯域 500MHz・km以上

メタリック/ノンメタリック
ケーブルの中心のテンションメンバに金属が使われているかどうかによる。

- メタリック 金属使用
- ノンメタリック 金属未使用



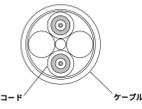
金属を使用している場合、最大許容張力が3倍以上になり、配線敷設が容易になる。

- メタリック 300N
- ノンメタリック 9.8N*当社製品の場合

ケーブルとコード

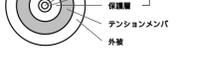
コード 光ファイバーのまわりを補強材でカバーし、そのまわりを外被で被覆されているもの

ケーブル コードが集合したもので、そのまわりを外被で被覆されているもの



光コード屋内用 単芯の仕様	
コア	石英 62.5μm (50.0μmのものも使用可)
クラッド	石英 125μm
保護層	ナイロン 0.9mm
テンションメンバ	高抗張力プラスチック繊維
外被	若草色PVC 2.8mm

- 重量 7.0kg/km
- 最大許容張力 98N
- 最小許容曲げ半径 30mm



● 製品仕様

- サポート規格
IEEE802.3 10BASE-T,
IEEE802.3u 100BASE-TX/100BASE-FX
- 100BASE-FX
マルチモード光ファイバー-SC又はST型コネクタ
波長 : 1300nm
送信パワー : -20.0dBm ~ -12.0dBm
受信感度 : -32.5dBm以下

- 転送モード
ストア&フォワード方式
- 電源部
定格入力電圧 : AC 100-240V
入力電圧範囲 : AC 90 ~ 255V
定格入力周波数 : 50/60Hz
最大入力電流 : 0.7A MAX
平均消費電力 : 141W (最大17w)
平均発熱量 : 12kcal/h (最大15kcal/h)

- 環境条件
保管時温度 : -20 ~ 60
保管時湿度 : 95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度 : 0 ~ 40
動作時湿度 : 80%以下 (ただし、結露なきこと)

- 外形寸法 (突起部含まず)
: 263(W) x 179(D) x 38(H) mm

- 重量 : 1.4Kg

- アドレスエントリー数 : 8000

- メモリ容量 : 4M byte

- 適用規格
安全規格 : UL1950 CSA C22.2 No.950
EMI : VCCI クラス A

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスI情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

● 保証

製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みなり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項を記入して、当社「お客様インフォメーション登録簿」までご返送ください。「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、修理や障害発生時のサポートなどが受けられません。

保証の制限
本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害 (人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない) については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

● ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、右の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号までFAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付いただくほうが、電話による問い合わせよりも速かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。

Tel: 0120-860-772
月・金 (祝・祭日を除く) 10:00-19:00
土 (祝・祭日を除く) 10:00-17:00
Fax: 0120-860-662
年中無休 24時間受け付け

● 調査依頼書のご記入にあたって

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

● 使用しているハードウェアについて

- 製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品の底面に貼付されているバーコードシールに記入されています。(例)

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に (再現できるように) 記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージ内容のプリントアウトなどを添付してください。

● ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

● おことわり

- 本書は、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書

- の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。ご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

Copyright ©1998 アライドテレシス株式会社

● 商標

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

● マニュアルバージョン

1998年6月 Rev.A 初版
1999年3月 Rev.B 改版